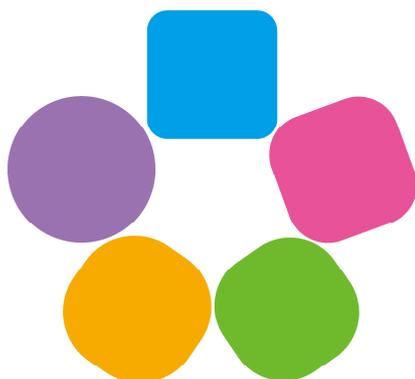


# 愛南町 SDGs 水産環境未来都市構想 (2023~2025)



いろこい あいなん

ainan

愛媛県 愛南町

## 愛媛県愛南町

# 目次

1 将来ビジョン .....	1
(1) 地域の実態 .....	1
(2) 2030年のあるべき姿 .....	9
(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なターゲット・ゴール .....	11
2 自治体SDGsの推進に資する取組み .....	18
(1) 自治体SDGsの推進に資する取組み .....	18
(2) 情報発信 .....	37
(3) 全体計画の普及展開性 .....	38
3 推進体制 .....	39
(1) 各種計画への反映 .....	39
(2) 行政体内部の推進体制 .....	40
(3) ステークホルダーとの連携 .....	40
(4) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等 .....	42
4 地方創生・地域活性化への貢献 .....	43

## 1 将来ビジョン

### (1) 地域の実態

#### ア 地域特性

##### ■愛南町の概況（地理的及び自然的特性）

愛南町は、愛媛県の最南端に位置し、東西 28.7km、南北 18.3km、総面積 238.99km<sup>2</sup>の町で、北は宇和島市と接し、内陸部は四国山脈から分岐した篠山山脈を望み、南は宿毛市と接し、海岸部では太平洋に面しています。

四国山脈の森林地帯から流れる僧都川の流域に平野部が開けて市街地を形成しており、海岸部では美しい景観のリアス式海岸が形成され、「足摺宇和海国立公園」に指定されています。

このように、山や海に囲まれ、自然環境に恵まれた愛南町は、宇和海海域公園や南予レクリエーション都市公園などの豊富な観光資源を擁しています。

産業は、まき網漁や一本釣り漁の漁船漁業とマダイ・ブリ・真珠母貝等の養殖漁業による水産業及び河内晩柑・甘夏等の柑橘農業が盛んですが、特に、水産業は日本有数の生産基地となっています。



図 1 愛南町 位置図

## ■人口

令和2年の愛南町の人口は19,601人であり、世帯数は8,889世帯、1世帯当たりの人員は2.2人となっています。平成27(2015)年との比較では、人口は約2,300人減少、世帯数は約500世帯減少しました。

令和2(2020)年の年齢3区分の人口構成では、年少人口(0~14歳)が8.1%、生産年齢人口(15~64歳)が46.2%、老年人口(65歳以上)が45.7%という状況になっています。65歳以上の高齢者割合が40%を超え、2人に1人が高齢者という状況が目前に迫っています。

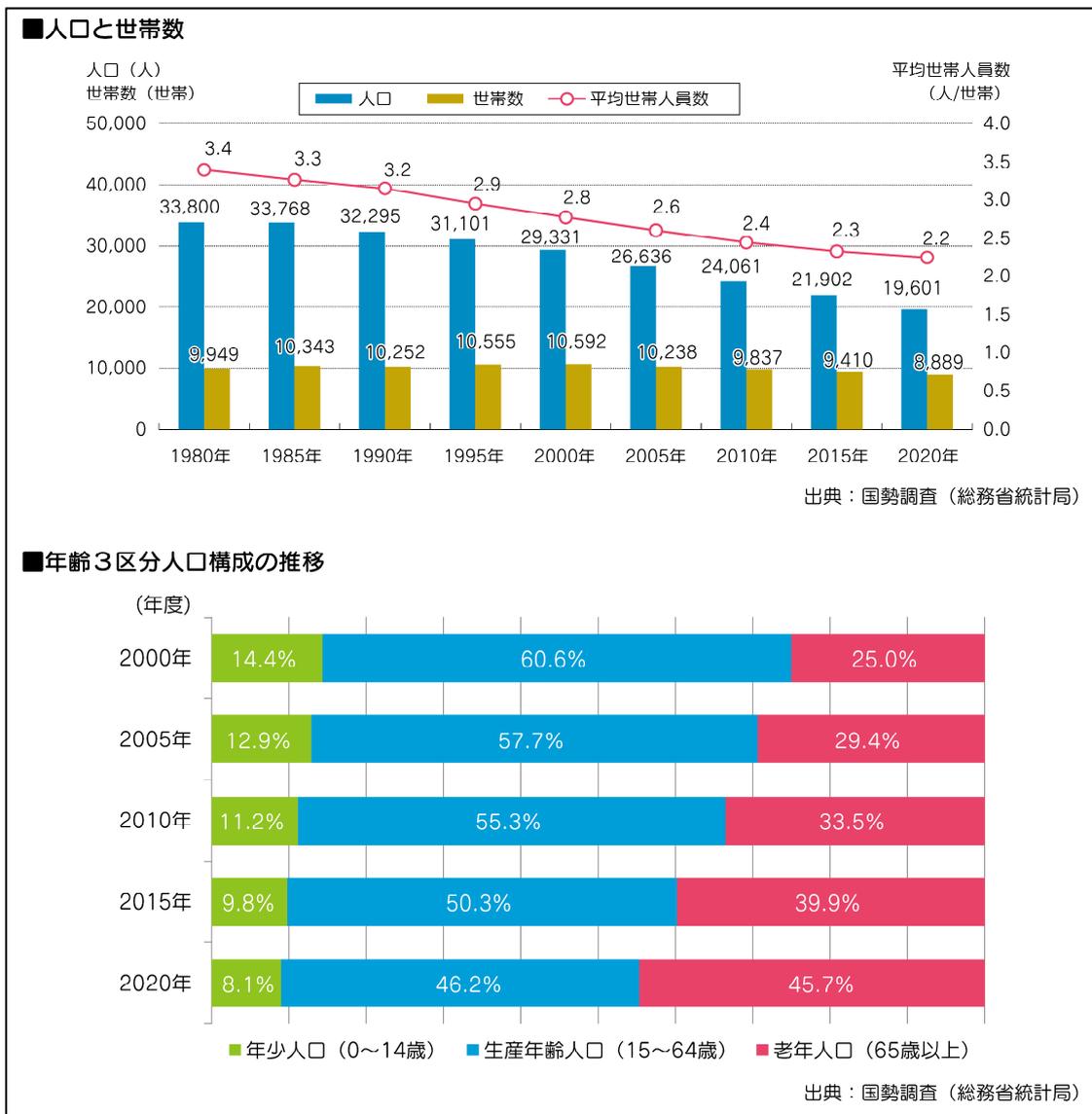


図2 人口推移と構成

## ■水産業

愛南町では水産業振興として、「愛南町水産・食料基地構想」及び「第2次愛南町総合計画」、「愛南町まち・ひと・しごと創生総合戦略」等に基づき、水産人材育成や漁業後継者の育成などの「人材育成」、産学官連携による水産技術の開発や水産物の付加価値の創出、海外販路開拓などの「水産イノベーション」、漁港の防災減災対策やインフラ整備、ぎょしょくの普及推進や関係人口・交流人口の創出・拡大などの「地域共創」を総合的に推進してきました。

また、国内第3位の水揚げ量（市区町村別養殖統計-魚類合計、平成30年度）を誇る魚類養殖を支える産学官連携プロジェクトは、国から地域イノベーション戦略推進地域に選定され、最先端の研究結果が町の水産業に実用化されています。

「第3次愛南町総合計画（2022～2029）」では、これまでの施策に加え「未来創生」として、環境負荷の軽減及び資源の持続性に配慮したSDGsの考え方を踏まえた持続可能な水産業の推進に取り組むこととしています。

町内には、愛南漁業協同組合（以下、「愛南漁協」という。）と久良漁業協同組合（以下、「久良漁協」という。）が存在し、周辺漁場は、豊後水道の入り口に位置する典型的なリアス式海岸で、豊富な魚種に恵まれた良湾となっています。

これにより古くから沿岸漁船漁業が盛んで、イワシ・サバ等を漁獲するまき網漁や、エビ・イカを始め多種多様な魚種を対象とする小型底引き網漁、マダイ・アジ・カツオ・イサキなどを主体とする延縄漁・刺網漁・一本釣り漁などが営まれてきました。さらに、養殖業も盛んで、マダイ・ブリ・カンパチ中心の魚類養殖、真珠養殖、カキ・ヒオウギガイなどの貝類養殖が発展してきた特徴があります。

特に、愛媛県は養殖マダイの生産量が全国1位で、県内の生産量の約30%は愛南町で生産されています。現在ではマダイの加工品も多く販売されており、質量ともに愛南町を代表する魚種のひとつとなっています。



図3 愛南町の養殖マダイ

## イ 地域の強み

### ■ぎょしょく教育と消費拡大

平成 16 年頃、愛南町の主要産業である漁業は魚価の低迷、燃油やエサの価格高騰等に伴い、生産が減少していました。

愛南町内外の小・中学校等で魚の生産から消費、文化に関する教育を実践し、水産物の消費拡大及び担い手の誘致・育成を図るために、水産業振興の一環として平成 17 年に各漁協、漁業者及び教育行政機関で組織する「愛南町ぎょしょく普及推進協議会」を設立しました。本町が行う教育プログラムで「魚触」「魚色」「魚職」「魚殖」「魚飾」「魚食」「魚植」の 7 つの「ぎょしょく」をコンセプトとし、水産物に対する正しい知識や地元水産業に対する理解の拡大を図り推進しています。

具体的な取組みとしては、保育所、幼稚園、小学校、中学校等での授業や行事を通じて、産地と消費地、都市と漁村の相互交流を実施しており、YouTube や cookpad、Instagram など SNS も活用しながら情報発信を行ったり、マダイやスマの 3 枚おろしが疑似体験でき、魚の図鑑を収録した Android アプリケーションを開発し配布したり、ぎょしょくカードゲームを愛媛大学の学生に制作していただき配布したり、町外での出前授業を実施していただくぎょしょく伝道師を育成するなど、町内外で水産物の消費拡大に貢献する取組みを実施しています。



図 4 協議会の PR キャラクター「ぎょしょく普及戦隊 愛南ぎょレンジャー」



図 5 協議会ホームページによる情報発信

## ■産学官の共同連携体制

各漁協や町の水産加工・流通事業者だけでなく、愛媛大学や松山大学、松山東雲女子大学、日本女子栄養大学、町内の南宇和高等学校、専門学科が複数ある宇和島水産高等学校などと愛南町が連携して、水産物のブランド化や商品開発等に取り組んで実績を挙げています。

愛媛大学については、南予地区の水産による地域振興に貢献するため、平成20年4月に文理融合レジデント型の研究・教育施設として「船越ステーション」と「松山ステーション」からなる「南予水産研究センター」（以下、「南水研」という。）を愛南町と連携して町内に設置し、海域のモニタリングを始めとして、地域に適したブランド魚の開発や養殖技術の確立及び普及戦略による魚類養殖業の振興など、地域の漁業者や各漁協とも協業しながら本町の水産業の発展に貢献しています。

その研究施設は、町村合併により使用しなくなった旧西海町庁舎（現愛南町西海支所）の空きスペースを有効に活用しており、平成25年4月には愛南町が整備した「うみらいく愛南（愛南町地域産業研究・普及センター）」に新たな南水研分室「西浦ステーション」も開設されています。

また、養殖魚の健康診断や魚病検査を行う「魚病診断室」を両漁協と愛南町が協力、運営しており、魚類防疫士（フィッシュドクター）を駐在させ魚版電子カルテシステムを導入し、健康なエコフィッシュの生産に貢献しています。



図 6 魚病診断室(左)及び魚版電子カルテ(右)

## ウ 地域の課題

### ■人口減少・流出

最新の国立社会保障・人口問題研究所の人口推計結果では、人口減少のスピードが速くなっており、平成 27 (2015) 年度の将来展望である令和 22 (2040) 年 14,500 人規模を目指すためには、転入増加率、転出抑制率及び合計特殊出生率を向上させる必要があります。

また、愛南町の自然人口（出生数と死亡数の差）及び社会人口（転入数と転出数の差）は、令和 2 (2020) 年時点では、両人口ともマイナス（減少）傾向となっています。

愛南町の人口は、長い間、転出超過による社会人口減の影響が大きい状況でしたが、平成 21 (2009) 年以降、超過死亡による自然人口減の影響が大きくなっています。

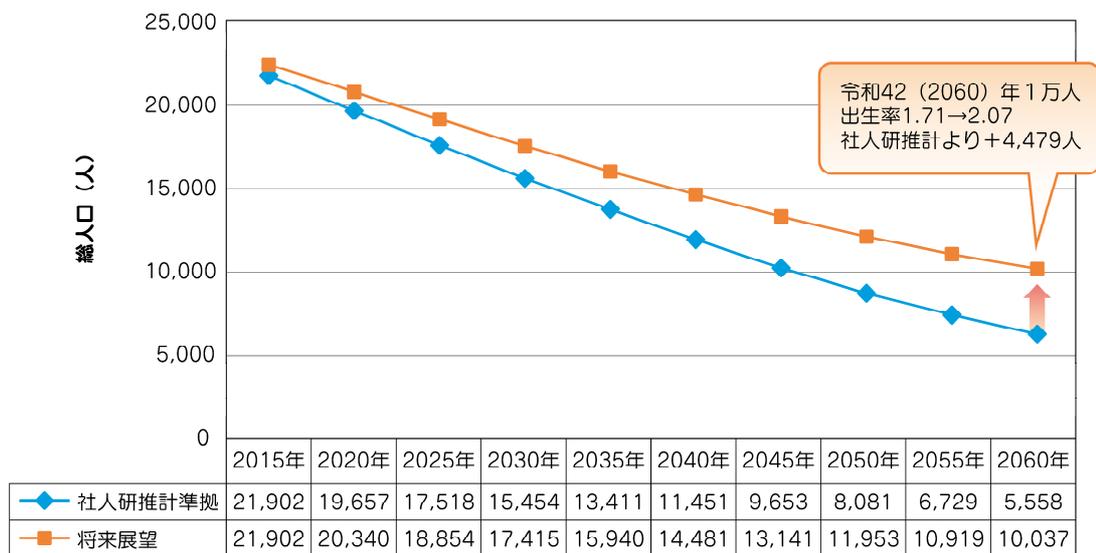


図 7 愛南町の人口推移と将来展望(令和元(2019)年度)

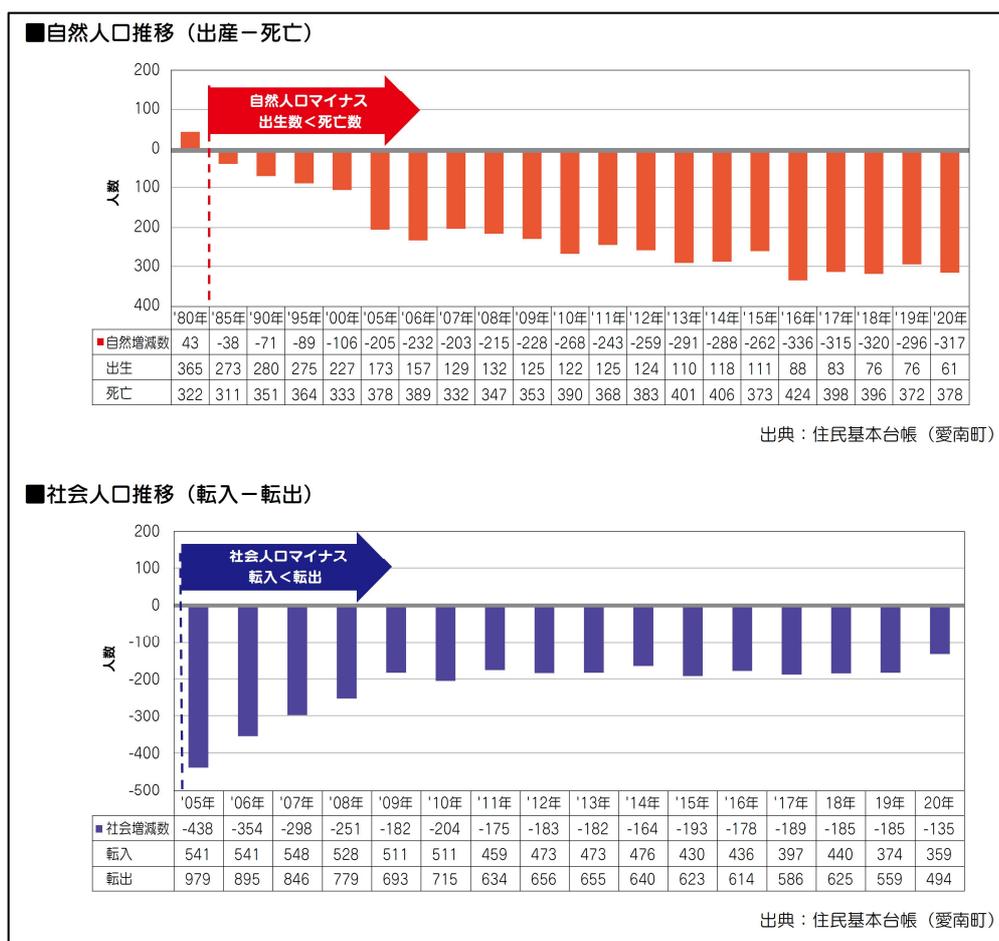


図 8 自然・社会人口の推移

**■雇用対策**

町内の就業者数は一貫して減少傾向にあり、平成 27（2015）年には 1 万人を下回っています。この 20 年間で比較すると、第一次産業が 5 割以上減少、第二次産業が約 6 割の減少、第三次産業は約 15%の減少となり、約 5,500 人の就業者が減少しています。



図 9 町内の産業別就業者数の推移

### ■水産資源、漁業生産額の減少

魚価低迷が続き、餌代や燃油価格の高騰により漁家経営は苦しい状態が続いています。また、少子高齢化と後継者不足も相まって、漁業者の減少が止まらず、漁業経営体数と登録漁船数はともに減少しています。

愛南町に限らず水産資源は減少傾向にあり、沿岸漁業は4年間でみると漁業生産額ベースで3分の2程度まで減少しています。

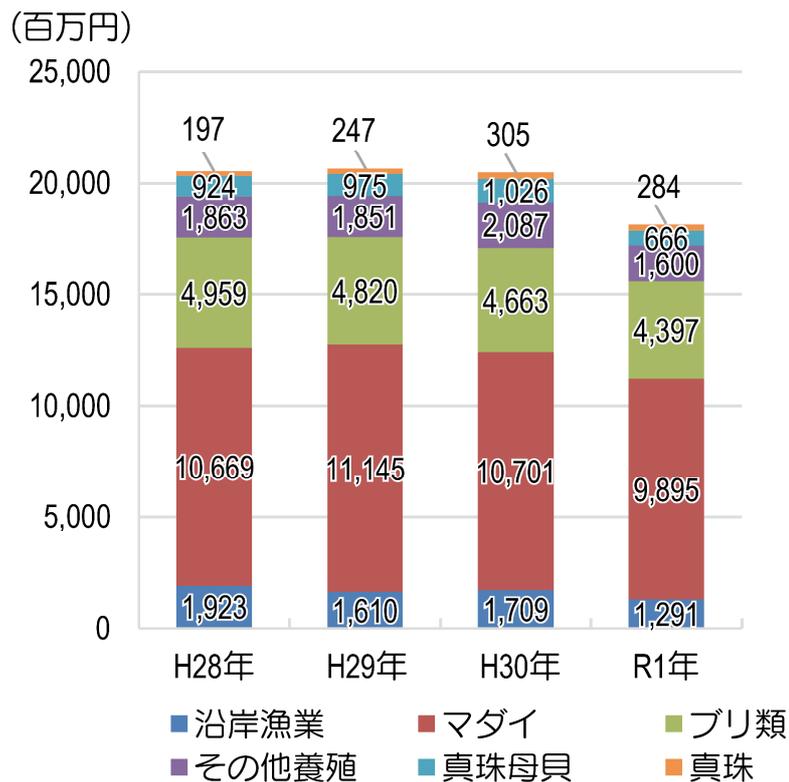


図 10 町内の漁業生産額の推移

## (2) 2030年のあるべき姿

### ア 取組みの柱

愛南町では前述した地域の実態を踏まえ、強みを生かし、弱みや課題を克服し、経済・社会・環境の三側面における新しい価値創出を通じて、持続的な漁業の振興やまちづくりを推進するために、SDGs 水産環境未来都市構想を策定します。

その取組みとして、環境に配慮したサステナブル水産業、地球規模で大きな問題となっている海洋プラスチックごみを新たな地域エネルギーとして再生し、町内で循環する海洋プラスチックごみ対策、CO<sub>2</sub> 吸収による温暖化を抑止するブルーカーボンプロジェクト、食品加工残渣などの無駄なごみを削減するゼロエミッション、ゼロ・ウェイストなどの SDGs サークュラーエコノミーシステムの構築等を総合的に推進することで、さまざまなコベネフィットを生み出し、持続可能なまちづくりを実現していきます。

具体的な取組みの柱として、以下の6つのプロジェクトを推進していきます。

- ① 愛南海の森ブルーカーボンプロジェクト
- ② 海洋プラスチックごみ対策プロジェクト
- ③ サステナブルフィッシュ開発プロジェクト
- ④ ゼロエミッション、ゼロ・ウェイストプロジェクト
- ⑤ スマート水産業推進プロジェクト
- ⑥ 海洋環境人材育成プロジェクト

### イ 取組みのイメージ(ビジョンマップ)

愛南町で検討している SDGs 水産環境未来都市構想の取組みのイメージとして、ビジョンマップを次頁に示します。青色のタグは環境分野の取組み・ステークホルダーを示し、緑色のタグは社会分野の取組み・ステークホルダー、オレンジ色のタグは経済分野の取組み・ステークホルダーをそれぞれ示しており、それぞれが循環するような形で有機的に関係する様子をイメージしています。

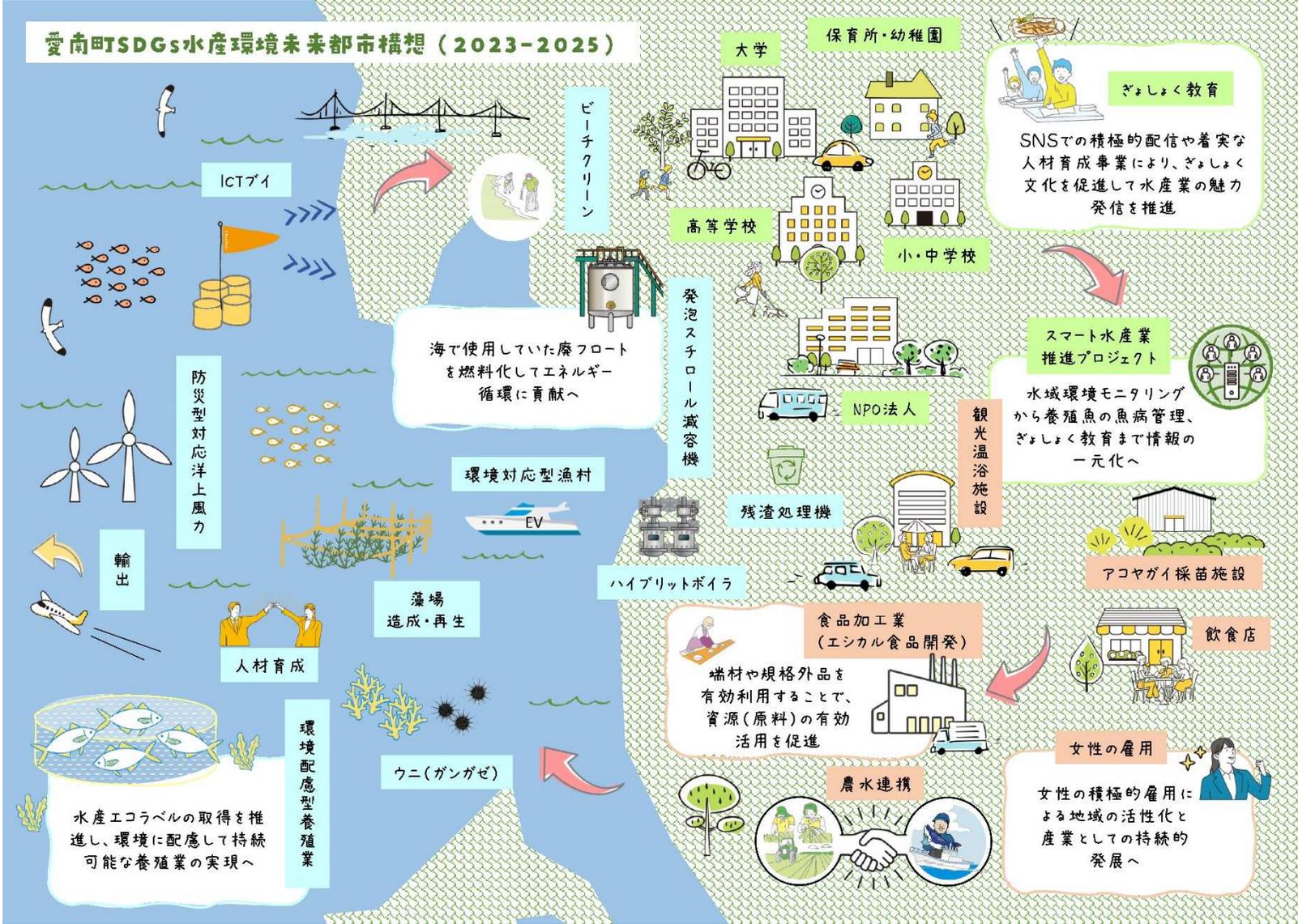


図 11 愛南町 SDGs 水産環境未来都市構想 ビジョンマップ

(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なターゲット・ゴール

ア 経済

経済分野における2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なターゲット・ゴールに対する指標と、KPIは以下のとおりです。

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
<p>9 産業と技術革新の 基盤をつくろう</p> 	9.4	<p>指標：カーボンオフセットの制度設計・商品開発を行う 【環境分野とも重複】</p>
<p>9 産業と技術革新の 基盤をつくろう</p>  <p>12 つくる責任 つかう責任</p> 		<p>現在（2022年）： 取組み実績なし</p>
<p>12 つくる責任 つかう責任</p>  <p>14 海の豊かさを 守ろう</p> 	9.4 12.5	<p>指標：樹脂燃料ハイブリットボイラの導入 【環境分野とも重複】</p>
<p>現在（2022年）： 導入実績なし</p>		<p>目標（2025年度末）： 町内で1基導入</p>
<p>12 つくる責任 つかう責任</p>  <p>14 海の豊かさを 守ろう</p> 	12.2 14.4	<p>指標：環境配慮型養殖業の認証事業者の増加 【環境分野とも重複】</p>
<p>現在（2021年末）： 認証事業者数8件 （延べ件数）</p>		<p>目標（2025年度末）： 認証事業者数13件 （延べ件数）</p>

ゴール、 ターゲット番号		KPI	
<b>12</b> つくる責任 つかう責任 	12.5	指標：未利用部位（端材）を使った加工品数	
	17.17	現在（2021 年末）： 1 点 （端材を活用したカレー）	目標（2025 年度末）： 10 点 （端材を活用した鯛めしの素や オリーブオイル漬け、干物 等）
<b>17</b> パートナーシップで 目標を達成しよう 			

#### ■2030 で目指す経済ビジョン

4つのプロジェクトを通じて「9 産業と技術革新の基盤をつくろう」、「12 つくる責任 つかう責任」、「14 海の豊かさを守ろう」、「17 パートナーシップで目標を達成しよう」の実現を目指し、具体的に以下の取組みを推進していきます。

プロジェクト名	主な取組み	ゴール・ターゲット番号	備考
愛南海の森ブルーカーボンプロジェクト	カーボンオフセット制度の検討	9.4 	環境分野 とも重複
海洋プラスチックごみ対策プロジェクト	発泡スチロール減容機、樹脂圧縮成型機の導入	9.4  12.5 	環境分野 とも重複
	樹脂燃料ハイブリッドボイラの導入	9.4  12.5 	環境分野 とも重複
サステナブルフィッシュ開発プロジェクト	環境配慮型養殖業	12.2  14.4 	環境分野 とも重複
	国際コールドチェーン	12.5 	
ゼロエミッション、ゼロ・ウェイストプロジェクト	エシカル食品開発	12.5  17.17 	

## イ 社会

社会分野における 2030 年のあるべき姿の実現に向けた優先的なターゲット・ゴールに対する指標と、KPI は以下のとおりです。

ゴール、 ターゲット番号	KPI			
<div data-bbox="274 566 504 790"> <p><b>14</b> 海の豊かさを 守ろう</p>  </div> <div data-bbox="274 801 504 1025"> <p><b>17</b> パートナーシップで 目標を達成しよう</p>  </div>	14.1 17.17	<div data-bbox="632 566 1377 651" style="background-color: #fff9c4;"> <p>指標：町内外ボランティアによる海浜清掃活動の実施 <b>【環境分野とも重複】</b></p> </div> <table border="1" data-bbox="632 651 1377 1032"> <tr> <td data-bbox="632 651 986 1032"> <p>現在（2021 年度）： 9 回</p> </td> <td data-bbox="986 651 1377 1032"> <p>目標（2025 年度末）： 12 回</p> </td> </tr> </table>	<p>現在（2021 年度）： 9 回</p>	<p>目標（2025 年度末）： 12 回</p>
<p>現在（2021 年度）： 9 回</p>	<p>目標（2025 年度末）： 12 回</p>			
<div data-bbox="274 1043 504 1267"> <p><b>2</b> 飢餓を ゼロに</p>  </div> <div data-bbox="274 1279 504 1503"> <p><b>4</b> 質の高い教育を みんなに</p>  </div> <div data-bbox="274 1514 504 1738"> <p><b>9</b> 産業と技術革新の 基盤をつくろう</p>  </div> <div data-bbox="274 1749 504 1973"> <p><b>11</b> 住み続けられる まちづくりを</p>  </div>	2.4 4.4 9.4 11.a 12.5 17.17	<div data-bbox="632 1043 1377 1128" style="background-color: #fff9c4;"> <p>指標：食品残渣処理機の導入・運用 <b>【環境分野とも重複】</b></p> </div> <table border="1" data-bbox="632 1128 1377 1984"> <tr> <td data-bbox="632 1128 986 1984"> <p>現在（2022 年）： 導入</p> </td> <td data-bbox="986 1128 1377 1984"> <p>目標（2025 年度末）： 運用体制構築 実証実験実施のうえ、実稼働</p> </td> </tr> </table>	<p>現在（2022 年）： 導入</p>	<p>目標（2025 年度末）： 運用体制構築 実証実験実施のうえ、実稼働</p>
<p>現在（2022 年）： 導入</p>	<p>目標（2025 年度末）： 運用体制構築 実証実験実施のうえ、実稼働</p>			

<p>12 つくる責任 つかう責任</p> 			
<p>17 パートナーシップで 目標を達成しよう</p> 			
<p>4 質の高い教育を みんなに</p> 	4.4	<p>指標：高等学校での出前講座の実施回数</p>	
		<p>現在（2022年）： 年間7講座実施</p>	<p>目標（2025年度末）： 年間12講座実施</p>
<p>5 ジェンダー平等を 実現しよう</p> 	5.b	<p>指標：水産業に従事する女性従業員数</p>	
<p>8 働きがいも 経済成長も</p> 	8.9	<p>現在（2018年）： 96人 （男：女=50%：50%） （漁業センサス 冷凍・冷蔵、水産加工場の部（市区町村編） 水産加工場に関する統計 従業者数より）</p>	<p>目標（2023年）： 106人 （男：女=45%：55%）</p>

## ■2030 で目指す社会ビジョン

3 つのプロジェクトを通じて「2 飢饉をゼロに」、「4 質の高い教育をみんなに」、「5 ジェンダー平等を実現しよう」、「8 働きがいも 経済成長も」、「9 産業と技術革新の基盤をつくろう」、「11 住み続けられるまちづくりを」、「12 つくる責任 つかう責任」、「14 海の豊かさを守ろう」、「17 パートナリーシップで目標を達成しよう」の実現を目指し、具体的に以下の取組みを推進していきます。

プロジェクト名	主な取組み	ゴール・ターゲット番号		備考
海洋プラスチックごみ対策プロジェクト	海岸漂着プラスチックごみ回収事業	14.1 17.17	 	環境分野 とも重複
ゼロエミッション、ゼロ・ウエイストプロジェクト	食品残渣のゼロ・ウエイスト事業	2.4 4.4 9.4 11.a 12.5 17.17	     	環境分野 とも重複
海洋環境人材育成プロジェクト	愛南町水産人材育成事業の拡充	4.4		
	愛南海洋環境塾の開設	4.4 14.1	 	環境分野 とも重複
	愛南町クリーンオーシャンツーリズム	4.4 8.9	 	環境分野 とも重複
	水産女子活躍プロジェクト	5.b 8.9	 	

## ウ 環境

環境分野における 2030 年のあるべき姿の実現に向けた優先的なターゲット・ゴールに対する指標と、KPI は以下のとおりです（前述の経済・社会の項で記載した内容については重複するため省略）。

ゴール、 ターゲット番号		KPI	
<b>14</b> 海の豊かさを 守ろう 	14.2	指標：ウニコクリー養殖の事業化（生産量）	
		現在（2021 年末）： 20kg	目標（2025 年度末）： 40kg
<b>6</b> 安全な水とトイレ を世界中に 	6.4	指標：ICT ブイの導入	
	9.4 14.2	現在（2021 年末）： 3 基	目標（2025 年度末）： 13 基導入、実運用開始
<b>9</b> 産業と技術革新の 基盤をつくろう 			
<b>14</b> 海の豊かさを 守ろう 			

## ■2030 で目指す環境ビジョン

4つのプロジェクトを通じて「6 安全な水とトイレを世界中に」、「7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに」、「9 産業と技術革新の基盤をつくろう」、「14 海の豊かさを守ろう」の実現を目指し、具体的に以下の取組みを推進していきます。

プロジェクト名	主な取組み	ゴール・ターゲット番号	備考
愛南海の森ブルーカーボンプロジェクト	藻場造成・再生・養殖・モニタリング事業	14.2	
海洋プラスチックごみ対策プロジェクト	防災対応型洋上風力発電事業の検討	7.2	
	海洋生分解性プラスチックの導入検討	14.1	
サステナブルフィッシュ開発プロジェクト	環境配慮型梱包資材への転換	9.4	
スマート水産業推進プロジェクト	水質テレメーターシステム導入	6.4	  
	赤潮自動顕微鏡システム導入	9.4 14.2	
	水産スマートモニタリングシステムの運用	14.2	

## 2 自治体 SDGs の推進に資する取組み

### (1) 自治体 SDGs の推進に資する取組み

#### ア 愛南海の森ブルーカーボンプロジェクト

本プロジェクトでは、藻場造成・再生・養殖・モニタリング事業やカーボンキャッシュ、カーボンオフセット制度、環境対応型漁村等に取り組む、具体的に以下に示す SDGs のターゲットと KPI を目標としてプロジェクトを推進していきます。

ゴール、 ターゲット番号		KPI	
	14.2	指標：ウニッコリー養殖の事業化（生産量）	
		現在（2021 年末）： 20kg	目標（2025 年度末）： 40kg
	9.4	指標：カーボンオフセットの制度設計・商品開発を行う	
		現在（2022 年）： 取組み実績なし	目標（2025 年度末）： 制度設計を行い、ふるさと納税も含めてカーボンオフセット商品を検討していく

#### <主な取組み>

##### ■藻場造成・再生・養殖・モニタリング事業

現在、愛南町では牡蠣殻を基質にした人工漁礁による藻場造成や磯焼けの要因となっているウニ（ガンガゼ）駆除による藻場再生に取り組んでおり、駆除したガンガゼは「ウニッコリー」として、愛媛大学等と連携しながら畜養を行っています。

ガンガゼの餌には、町の特産品であるブロッコリーと河内晩柑（愛南ゴールド）の端材や市場に流通できない規格外品等を利用することにより、廃棄量の削減につながります。ブロッコリーを与えることによってガンガゼ特有の苦みやえぐ味が軽減され、甘味が増してまろやかになります。さらに、出荷前に愛南ゴールドを与えることで、ほのかな柑橘の香りが加わり商品付加価値の向上にも寄与しています。

また、愛南町にも自生している南方系の大型海藻であるホンダワラ類の藻場を増やすことによって、大気中から海中へ溶け込んだ二酸化炭素の貴重な吸収源となることが期待されます。さらに、ブルーカーボンとして藻類養殖の推進や藻場再生調査による生物多様性評価及び環境ゲノム解析を、愛南町と愛媛大学と共同で行い継続したモニタリングを実施していきます。

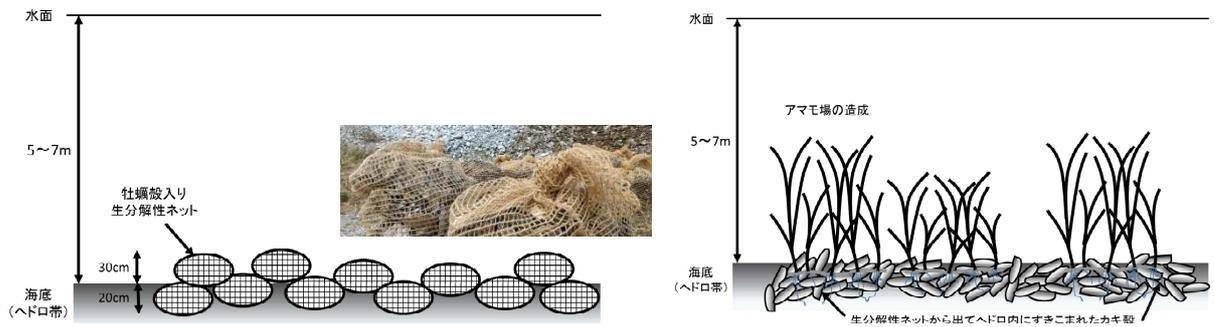


図 12 御荘湾における牡蠣殻基質による藻場造成試験のイメージ



図 13 ガンガゼ除去による藻場造成試験(左:除去前、右:除去後)



図 14 製品化したウニッコリー

## ■カーボンオフセット制度の検討

カーボンオフセットとは、日常生活や経済活動で排出する CO<sub>2</sub> 等の削減努力を行い、それでも超過した部分を削減活動に投資することなどにより埋め合わせるという考え方で、前述したブルーカーボン等への取組みに関連する商品をクレジット商品（Jブルーカーボンクレジット）として認証させ、藻場造成・再生・養殖・モニタリング事業などの資金源として循環させることを検討していきます。既に愛南町ではウニの駆除やホンダワラの藻場再生による CO<sub>2</sub> 吸収量の効果測定等を実施しており、ふるさと納税として森林の CO<sub>2</sub> 吸収量を返礼品としている例もあり、そのような先進的な事例を踏まえながら、制度設計を進めていきます。

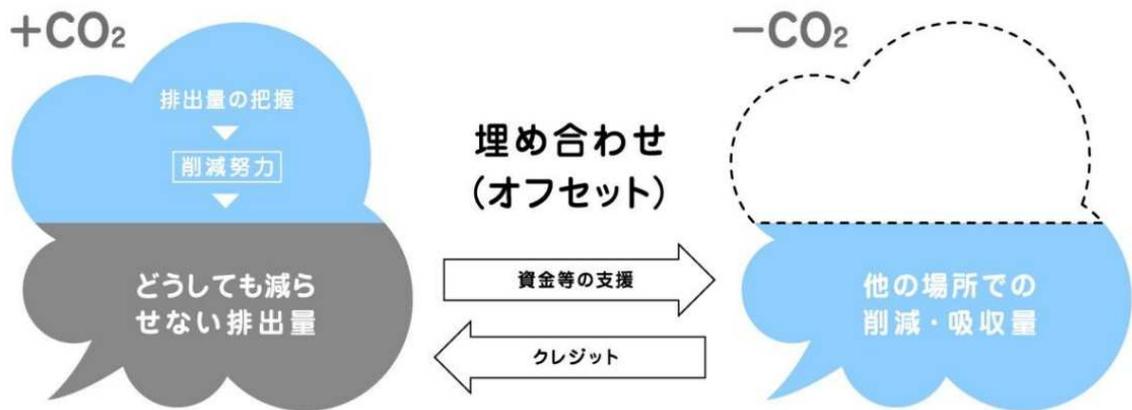


図 15 カーボンオフセットの考え方

出典：環境省「カーボンオフセットレポート」（平成 26 年度）



図 16 新潟県「ふるさと納税返礼品カーボンオフセット」事業の取組み

出典：環境経済株式会社ホームページ

## イ 海洋プラスチックごみ対策プロジェクト

本プロジェクトでは、発泡スチロール減容機や樹脂燃料ハイブリットボイラ導入、住民参加型の海岸漂着プラスチックごみ回収、防災対応型洋上風力発電事業の検討等に取り組む、具体的に以下に示す SDGs のターゲットと KPI を目標としてプロジェクトを推進していきます。

ゴール、 ターゲット番号	KPI			
<div data-bbox="277 658 504 887"> <p><b>9</b> 産業と技術革新の 基盤をつくろう</p>  </div> <div data-bbox="277 898 504 1126"> <p><b>12</b> つくる責任 つかう責任</p>  </div>	<p>9.4 12.5</p>	<p>指標：樹脂燃料ハイブリットボイラの導入</p> <table border="1" data-bbox="995 703 1378 1126"> <tr> <td data-bbox="995 703 986 1126"> <p>現在（2022年）： 導入実績なし</p> </td> <td data-bbox="986 703 1378 1126"> <p>目標（2025年度末）： 町内で1基導入</p> </td> </tr> </table>	<p>現在（2022年）： 導入実績なし</p>	<p>目標（2025年度末）： 町内で1基導入</p>
<p>現在（2022年）： 導入実績なし</p>	<p>目標（2025年度末）： 町内で1基導入</p>			
<div data-bbox="277 1137 504 1366"> <p><b>14</b> 海の豊かさを 守ろう</p>  </div> <div data-bbox="277 1377 504 1601"> <p><b>17</b> パートナーシップで 目標を達成しよう</p>  </div>	<p>14.1 17.17</p>	<p>指標：町内外ボランティアによる海浜清掃活動の実施</p> <table border="1" data-bbox="995 1182 1378 1601"> <tr> <td data-bbox="995 1182 986 1601"> <p>現在（2021年度）： 9回</p> </td> <td data-bbox="986 1182 1378 1601"> <p>目標（2025年度末）： 12回</p> </td> </tr> </table>	<p>現在（2021年度）： 9回</p>	<p>目標（2025年度末）： 12回</p>
<p>現在（2021年度）： 9回</p>	<p>目標（2025年度末）： 12回</p>			

<主な取組み>

### ■発泡スチロール減容機、樹脂圧縮成型機の導入

愛南漁協では、使用済み発泡スチロール製フロートの減容・リサイクル技術を導入、久良漁協でも数年に一回レンタルにて本技術を利用しており、今後は今まで町外に処理を委託していた廃発泡スチロールフロートの全量を町内で樹脂燃料化することで、コストの縮減と再資源化による地域再生エネルギー循環に貢献することを目指していきます。

### ■樹脂燃料ハイブリットボイラの導入

上記の樹脂燃料をエネルギーとして活用するためには、専用のボイラーが必要となり、それらのボイラーを導入することで、無害で安心な温水・蒸気を生成することが可能になります。今後は、それらを活用してアコヤガイ採苗施設や町内の温浴施設などの熱源として有効活用を図っていく取組みを検討していきます。



図 17 使用済み発泡スチロール製フロートの減容リサイクル技術と減容ペレット化のイメージ

出典：株式会社エルコム提供

## ■海岸漂着プラスチックごみ回収事業

愛南町では、漂着ごみの海浜清掃活動に取り組んでおり、各漁協や漁業者、愛媛大学及びボランティア団体が協力して、海岸に漂着したプラスチックごみや流木等を回収しています。また、台風や暴風雨の際に、海に流れ出る漂流ごみの多くは流木ですが、プラスチックごみも流れ出ていることから、愛南町と各漁協が連携して回収作業に取り組んでいます。

将来的には地域のデジタル通貨を発行し、ビーチクリーン活動を行った参加者が得たデジタル地域通貨を、町内の飲食店で利用できるなどの仕組みを構築することで、清掃ボランティアの参加を促し、また処理するプラスチックごみも資源化することでカーボンオフセットの取組みにもつなげていくことを計画しています。



図 18 愛南町におけるクリーンツーリズムのイメージ

### ■防災対応型洋上風力発電事業の検討

カーボンニュートラル漁業として、脱炭素化したエネルギー（水素、電気等）による漁船動力の推進を行っていきます。

また、防災対応型洋上風力発電事業として、洋上風力発電により生成した電力を蓄電池に充電しておくことで災害時の非常用電源として活用することが出来るため、このような取組みの検討を推進していきます。

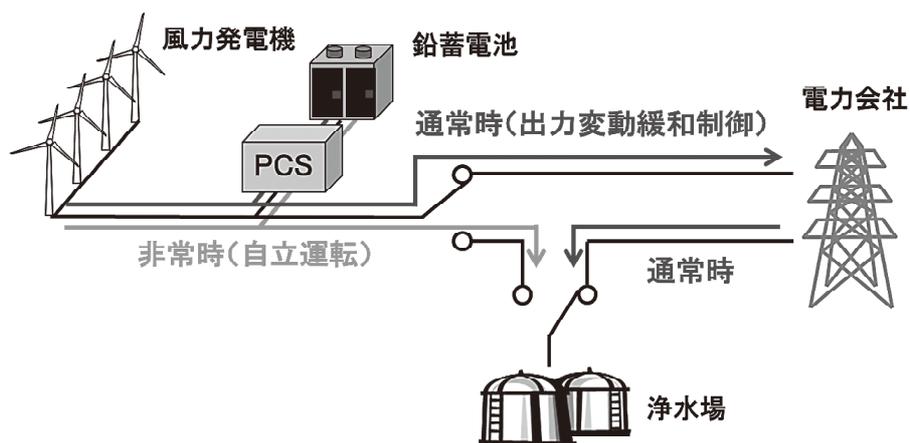


図 19 防災対応型風力発電システムのイメージ

出典：日本風力エネルギー学会誌

### ■海洋生分解性プラスチックの導入検討

海洋生分解性プラスチックとは、自然環境下に存在する微生物の働きにより分解され、最終的には二酸化炭素と水となり自然界へと循環される、環境に配慮したプラスチックの素材のことで、フロートや漁網、ロープなどの漁具について、これらの性能を有した資材の研究開発が進められています。久良漁協ではこの海洋生分解性プラスチックを活用した漁具の導入検討を進めており、食物連鎖を通じて私たちの体内にも蓄積されていくと懸念されている、マイクロプラスチックの問題にも対応していきます。

## ウ サステナブルフィッシュ開発プロジェクト

本プロジェクトでは、MEL や BAP 及び KOSHER 認証といった環境配慮型養殖業の推進や国際コールドチェーン、環境に配慮した梱包資材への転換等に取り組み、具体的に以下に示す SDGs のターゲットと KPI を目標としてプロジェクトを推進していきます。

ゴール、 ターゲット番号		KPI	
 12 つくる責任 つかう責任	12.2	指標：環境配慮型養殖業の認証事業者の増加	
	14.4	現在（2021 年末）： 認証事業者数 8 件 （延べ件数）	目標（2025 年度末）： 認証事業者数 13 件 （延べ件数）
 14 海の豊かさを 守ろう			

### <主な取組み>

#### ■環境配慮型養殖業

環境配慮型養殖業として水産エコラベル認証の取得を推進していきます。水産エコラベルとは、生態系や資源の持続性に配慮した方法で漁獲・生産された水産物に対して、消費者が選択的に購入できるよう商品にラベルを貼付する認証スキームのことで、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の水産物の調達基準として採用されるなど、近年エシカル消費への関心の高まりも相まって、注目されている制度です。

認証制度には、日本発祥で国際的な認証（GSSI 認証）を受けている MEL 認証を始め、BAP や MSC（漁船漁業）、ASC（養殖業）といったスキームが存在します。また、生産段階の認証制度だけでなく、流通加工段階（CoC 認証）に対する認証制度もあり、消費者に対し認証制度の水産物と証明するまでには、流通・加工・販売まで認証がとれており、トレーサビリティ（追跡履歴）がある取組みが求められています。

愛南町では、愛南漁協の組合員のうち次世代を担う青年漁業者連絡協議会のメンバーを中心に、漁協単位で日本トップクラスの生産量を誇るマダイについて、MEL 認証をグループで取得したほか、CoC 認証を取得した流通加工業者もいます。その

ほか、SCSA 認証制度においても持続可能な水産養殖のための種苗認証 (CoC 認証) を取得し、サステイナブルな養殖魚の販売を進める体制を整えています。



図 20 町内の事業者等が取得・申請・検討している認証制度

#### ■国際コールドチェーン

輸出の取組みを推進していく中で、輸送時間がかかるため通常の輸送では輸送中の品質低下によるロスが発生してしまう実態があります。そこで、愛南漁協では食品の鮮度を長く保ち、菌の発生を抑制してロス率を限りなくゼロに近づけるような技術の取り込みや、鮮度や品質が落ちない冷凍技術の導入などを検討して、輸出においてコールドチェーンを確立させる取組みを推進していきます。

#### ■環境配慮型梱包資材への転換

従来使用している発泡スチロールでは箱自体の容積が大きいことから運送する際に積載率が悪く、加えて発送してしまえばその後再利用も出来ず使い捨てとなってしまうため、より環境に配慮し、かつ水産物としての価値を落とさないよう保冷能力に長けている、カーボンニュートラルダンボール梱包資材を使った実証試験を行っています。

適切に管理されている森林の資源のみを利用している段ボールであれば再生可能な資源であり、ダンボールの原料になる木材は、光合成によって CO<sub>2</sub> を吸収することで成長するため、焼却処分したとしても大気中に新たな CO<sub>2</sub> を増加させないクリーンな包装資材であると考えられます。実証試験の中では箱を組み立てるコストや箱の保存場所が課題となっており、それらの課題を解決させて、実用化につなげるための検討を進めていきます。

## エ ゼロエミッション、ゼロ・ウェイストプロジェクト

本プロジェクトでは、食品残渣のゼロ・ウェイスト事業やエシカル食品開発等に取り組む、具体的に以下に示す SDGs のターゲットと KPI を目標としてプロジェクトを推進していきます。

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
<b>2</b> 飢餓を ゼロに 	2.4 4.4 9.4 11.a 12.5 17.17	<b>指標：食品残渣処理機の導入・運用</b> 現在（2022年）： 導入 目標（2025年度末）： 運用体制構築 実証実験実施のうえ、実稼働
<b>4</b> 質の高い教育を みんなに 		
<b>9</b> 産業と技術革新の 基盤をつくろう 		
<b>11</b> 住み続けられる まちづくりを 		
<b>12</b> つくる責任 つかう責任 		
<b>17</b> パートナーシップで 目標を達成しよう 		

ゴール、 ターゲット番号		KPI	
<b>12</b> つくる責任 つかう責任 	12.5	指標：未利用部位（端材）を使った加工品数	
	17.17	現在（2021 年末）： 1 点 （端材を活用したカレー）	目標（2025 年度末）： 10 点 （端材を活用した鯛めしの素や オリーブオイル漬け、干物 等）
<b>17</b> パートナーシップで 目標を達成しよう 			

<主な取組み>

**■食品残渣のゼロ・ウェイスト事業**

食品残渣処理機による加工残渣等の廃棄物の肥料化やマダイの加工残渣を使った柑橘用肥料の実用化試験を、地元の高等学校等とも連携して推進していきます。

愛南漁協では、廃棄する残渣を肥料へと変えることができる生ごみ処理機の導入を予定しており、今までごみとして焼却や埋め立てされていた廃棄物を肥料に変えることで、処理費を軽減しつつ、環境負荷を大きく減らすことが可能になります。

食品残渣処理機の導入後の運用に関しては、愛南漁協が運用する加工施設に処理機を設置し、障がい者の就労支援を行っている NPO 法人「ハート in ハートなんぐん市場」に処理作業を委託して、完成した肥料は河内晩柑（愛南ゴールド）等を生産している同施設の農場に供給することで、域内循環を図る計画を検討しています。

さらに、河内晩柑を搾汁した際に残渣として残る果皮をマダイの餌に添加する検討も進めており、マダイの加工残渣から肥料を作り、その肥料で河内晩柑を育て、河内晩柑の残渣（皮）で、マダイを育てるというサーキュラーエコノミーモデルが形成できれば、水産業と農業が連携した他地域へも波及可能かつ持続可能なモデルになると考えています。

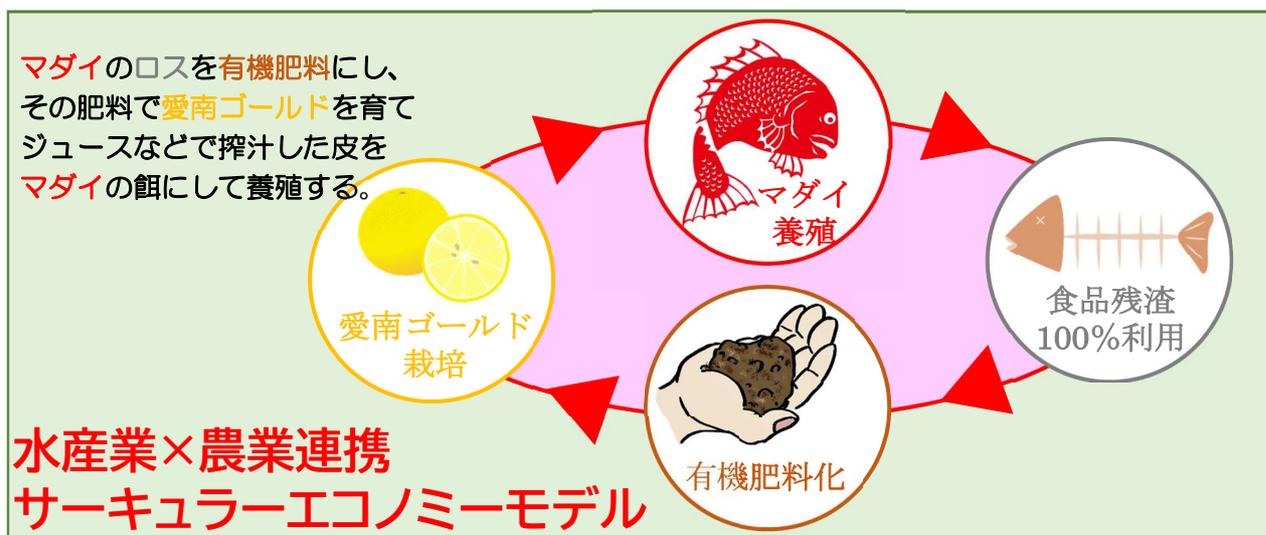


図 21 サークュラーエコノミーモデルのイメージ

### ■エシカル食品開発

これまで愛南町のマダイは加工せずにラウンド（丸魚）での出荷が主流でしたが、コロナ禍をきっかけに、近年大企業との加工品での取引が増加しており、全国のハンバーガーチェーンでのマダイカツバーガーや、大手コンビニでのマダイおにぎりなど加工した原料の供給を行ってきました。ただし、これらの実現については、新型コロナウイルス感染症の影響を最小限に抑えるため、農林水産省の補助事業等を積極的に活用しながら実現したものであり、企業側が求める納入単価と産地側で実現可能な納入単価に乖離があるため、可食部として販売する製品以外でも原料を換金する必要があり、加工した際に出る端材をいかに有効利用するかが今後の課題となっています。

そこで、マダイの加工端材のうち、頭・骨などの出汁やエキスを抽出してうま味が出るものを使った商品開発を、宇和島水産高等学校などとも連携しながら実施していきます。

商品開発の方向性としては、エンドユーザーと価値を共有したマーケットイン型商品開発を意識して、頭や骨などを粉砕し、パウダー状にしたものを混ぜ込むなどを想定しています。



図 22 未利用魚や端材を活用した商品の試作品

## オ スマート水産業推進プロジェクト

本プロジェクトでは、水質テレメーターシステムや赤潮自動顕微鏡システム及び水産スマートモニタリングシステム等に取り組み、具体的に以下に示す SDGs のターゲットと KPI を目標としてプロジェクトを推進していきます。

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
<b>6</b> 安全な水とトイレ を世界中に 	6.4 9.4 14.2	<b>指標：ICT プイの導入</b> 現在（2021 年末）： 3 基 目標（2025 年度末）： 13 基導入、実運用開始
<b>9</b> 産業と技術革新の 基盤をつくろう 		
<b>14</b> 海の豊かさを 守ろう 		

<主な取組み>

### ■水域情報可視化の DX（デジタルトランスフォーメーション）推進

町内全養殖漁場の水質情報（水温、DO（溶存酸素量）、塩分濃度、クロロフィル）のリアルタイム可視化や魚病電子カルテシステムにより、愛南漁協や愛南町から水域情報、魚病情報を漁業者に迅速に情報提供し、戦略的な漁業・養殖業の実現を支援しています。養殖魚の健康診断や魚病検査を行う「魚病診断室」には魚類防疫士（フィッシュドクター）が駐在しており、両漁協と愛南町が協力して運営しています。

また、漁業者と愛媛大学、愛南漁協、愛南町から水産物の消費拡大のため、消費者にアピールする一連の流れを ICT の活用により行っており、継続して産学官の連携により実施していきます。



## ■水産スマートモニタリングシステム

従来の手作業での水質調査について、ICT プイを活用することで自動化し、水産スマートモニタリングシステム開発の検討を進め、赤潮・魚病等の発生予測 AI システムを構築していきます。PC やスマートフォンでも情報を確認できることで、より迅速に対応できるような仕組みを検討していくことと、新規で設置する箇所を増やすことで、より広域で効果的に活用できるシステムの開発を推進していきます。

具体的には養殖業者が多く、有害赤潮や魚病等の漁業被害が多い水域への観測機器（水質テレメーターシステム）の設置や、赤潮発生源の可能性が高い水域に自動顕微鏡システム（seaMS）を設置し、養殖漁場の定点観測を行っていきます。これらの環境情報は、クラウドシステム上にリアルタイムで送信・蓄積され、PC やスマートフォン等の Web アプリ上にて漁業者がいつでも利用可能なシステムとして整備します。今後は、現在まで同水域にて取得・蓄積してきた過去水質データや、周辺水域等の環境データを用いて機械学習（時系列解析）を行い、より高度な魚病や有害赤潮等の漁業被害予測を可能にする AI システムを開発していきます。

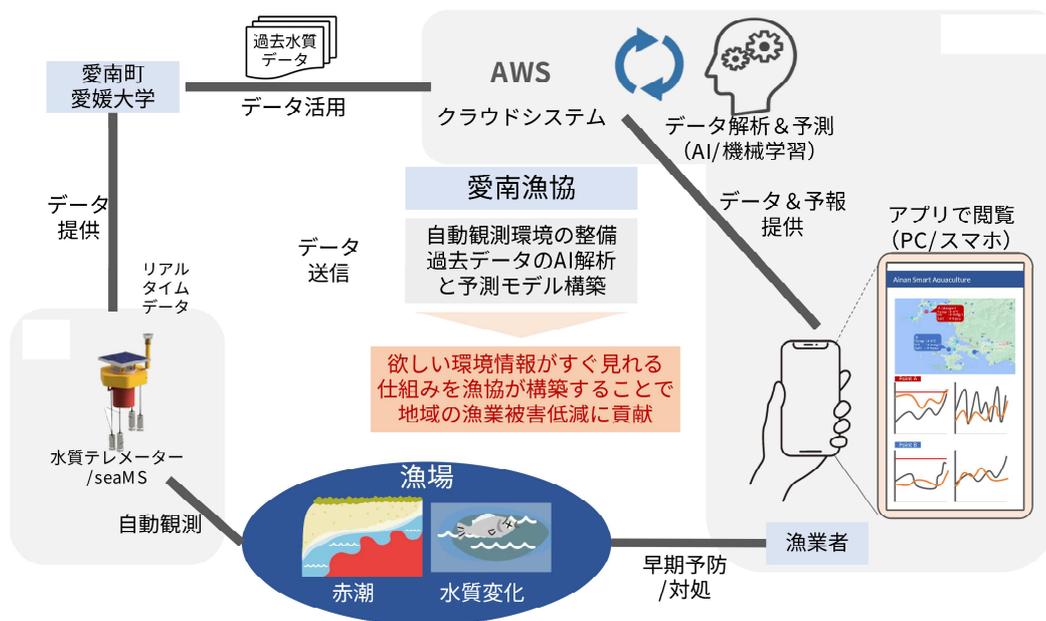


図 24 水質異常警報システムのイメージ

## カ 海洋環境人材育成プロジェクト

本プロジェクトでは、愛南町水産人材育成事業の拡充や愛南海洋環境塾の開設、愛南町クリーンオーシャンツーリズム、水産女子活躍プロジェクト等に取り組み、具体的に以下に示す SDGs のターゲットと KPI を目標としてプロジェクトを推進していきます。

ゴール、ターゲット番号		KPI	
<b>4</b> 質の高い教育をみんなに 	4.4	指標：高等学校での出前講座の実施回数	
		現在（2022年）： 年間 7 講座実施	目標（2025年度末）： 年間 12 講座実施
<b>5</b> ジェンダー平等を実現しよう 	5.b 8.9	指標：水産業に従事する加工場における女性従業員数	
		現在（2018年）： 96人 （男：女=50%：50%） （漁業センサス 冷凍・冷蔵、水産加工場の部（市区町村編） 水産加工場に関する統計 従業者数より）	目標（2023年）： 106人 （男：女=45%：55%）
<b>8</b> 働きがいも経済成長も 			

<主な取組み>

### ■愛南町水産人材育成事業の拡充

将来の水産業を担う人材の育成を目的として、愛南町で取り組んでいる持続可能な取組みも含め、既に取り組んでいる町内の南宇和高等学校へ、水産業の魅力を伝える出前講座を引き続き実施していきます。座学だけでなく、希望者には養殖現場での実習など講座内容もさらに拡充させていきます。



図 25 出前講座実施の様子

出典：愛媛県立南宇和高等学校

### ■愛南海洋環境塾の開設

廃棄プラスチックごみ、ブルーカーボン、カーボンニュートラルを学べる仕組み（年代ごとの学習プログラム）や、海洋環境学習サロンの開設、宇和海沿岸高校連携・交流ビーチクリーンアップ事業等を通じて、年代・性別問わず幅広い町民に対して環境教育ができる体制を構築し、愛南海洋環境塾の開設を目指していきます。

### ■愛南町クリーンオーシャンツーリズム

これまで愛南町で取り組んできた「ぎょしょく教育」や、前述したクリーンツーリズムやサーキュラーエコノミー事業をはじめとする各プロジェクトの体験ツアー、海岸の漂着物を活用したシーボーンアートなどを組み合わせ、愛南町クリーンオーシャンツーリズムとして、修学旅行や社員研修などの誘致を行い、町の経済活性化にもつなげていく取り組みを推進していきます。

「ぎょしょく教育」では新型コロナウイルス感染症の影響により、調理実習や行動制限により町外での活動が困難になったことから、令和 2 年度から新たな社会様式に対応した動画サイトや SNS、アプリケーションの開発など、DX の取り組みも加速させています。



図 26 シーボーンアートのイメージ

出典：シーボーンアート愛南教室

(一般社団法人 愛媛県観光物産協会「いよ観ネット」)



図 27 アプリケーションを使った出前事業実施の様子



あなぎょレンジャーちゃんねる  
チャンネル登録者数 351人

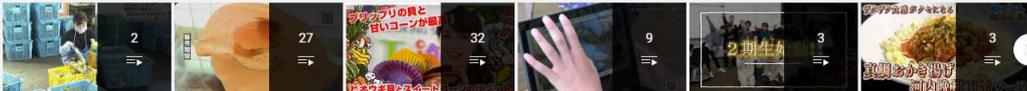
チャンネル登録

ホーム 動画 再生リスト チャンネル 概要



夏のDigi田甲子園（本選出場）愛媛県愛南町 PR動画「コロナ...」  
93 回視聴・3 週間前  
夏のDigi田甲子園のインターネット投票が7月12日から8月15日まで、次の内閣官房のホームページで行われていますので、ぜひ皆様の投票をお願いします。  
投票フォーム <https://www.cas.go.jp/digidenkoshien...>  
「夏のDigi田甲子園」は、「デジタル田園都市国家構想」の一環として、全国の市町村が実施する特に優れた取組みやアイ...  
詳細

作成した再生リスト



ウニッコリー 再生リストの全体を見る  
あいなん逸品図鑑（あいなん物産 テレビ放送 探訪） 再生リストの全体を見る  
ぎょしょくアプリケーション（出 愛南マダイ応援隊 前授業を含む） 再生リストの全体を見る  
あいなんレストラン 再生リストの全体を見る

アップロード済み

【真鯛】真鯛のさばき方① プロが教える真鯛の3枚お... 2.1万 回視聴・2 年前	【フリ】フリのさばき方 プロが教えるフリのおろし方 1.1万 回視聴・1 年前	【真鯛】真鯛のさばき方②〜 キッチンバサミ使用編〜 8665 回視聴・2 年前	【産スマ】産スマのさばき方 プロが教える高級魚スマお... 8318 回視聴・2 年前	【真鯛フィレ】真鯛のお刺身 7408 回視聴・2 年前	【産スマ】産スマのお刺身 (炙り) プロが教える高... 3862 回視聴・2 年前
【レシピ003】レンジで簡単！ 真鯛の酒蒸し 1441 回視聴・2 年前	【レシピ001】レンジで簡単！ 真鯛の煮付け 964 回視聴・2 年前	愛南漁協公式オンラインショッ プオープンPR動画 766 回視聴・2 年前	【レシピ002】レンジで簡単！ 鯛そうめん（煮付け魚） 631 回視聴・2 年前	【レシピ006】真鯛の中骨アラ汁 447 回視聴・2 年前	愛南真鯛でコロナ撃退”鯛” 350 回視聴・2 年前
真鯛の3枚おろしに挑戦 androidアプリPR動画 夏... 328 回視聴・1 年前	【社説】ホットプレートで簡単！ 焼きかき 殻付き愛南... 328 回視聴・4 か月前	「第11回愛南町水産フォーラム」 327 回視聴・1 年前	ウニッコリー（ガンガゼウニ） 厄介者と端材が高級... 306 回視聴・9 か月前	おいしい海産「ひろめ」をひろめたい ひろめの保存方... 306 回視聴・1 年前	【鯛】鯛のお刺身 プロが教える 鯛の刺身 293 回視聴・4 か月前

図 28 「ぎょしょく教育」活動で作成・配信した動画例

## ■水産女子活躍プロジェクト

漁業がもつ可能性や特性を生かし、水産物や海に対する地域住民の多様なニーズに対応した漁業の新しい事業展開を図ることを目指し、漁港の施設や空間を有効利用し、レジャー・レクリエーション・サービスを展開するなど、漁業とそれ以外の産業との融合を図って地域活性化に結び付ける海業の推進を行っていきます。

特に、地域課題として人口減少や労働力不足や雇用対策が求められているため、女性が活躍できるよう、漁家レストラン、キッチンカー、漁家民宿、マリンアートなど関連産業の推進も支援し、ワーケーションによる一時保育預かりの制度や事業所内保育所設立支援などを通じ、女性が働きやすい環境の整備を推進していきます。

宮城県石巻市の水産加工会社である湊水産株式会社では、震災の影響や核家族化の進展で子どもを預けることができず、働きたくても働けない女性が潜在的に多数いる地域課題を背景に、自社の女性従業員が安心して長く働ける環境を整備するため、市内の撤退する認可外保育施設から保育事業の引き継ぎを打診して、石巻地方初の事業所内保育所として保育事業を継承しました。

その後、内閣府の「企業主導型保育事業」の助成を受け、敷地内に新たな保育施設を建設して「湊水産・結のいえ保育園」を開所し、同保育園を利用する従業員の保育費用の一部を会社が負担して、家庭状況に合わせた就業時間の選択ができる制度を導入しました。この取組みにより、予定求人の10倍以上の応募が入り、環境さえ整えば働きたい女性たちを取り込み新たな従業員の確保に成功するとともに、同社の社員だけでなく、地域の企業とも提携を結び児童を受け入れることで、地域の課題解決にも貢献しています。



図 29 水産加工会社の事業所内保育所

出典：湊水産株式会社、結のいえ保育園

## (2) 情報発信

### ア 域内向け

#### ■協議会の活用

既存の愛南町ぎょしょく普及推進協議会等を通じ、目標を達成するための共通の課題を、漁業者や教育機関、研究機関、町内外の水産関係の事業者や行政・町民等のステークホルダーに提示し、理解促進を図りながら構想を推進していきます。

#### ■町民を巻き込んだイベントの開催

海浜清掃やデジタル地域通貨の取組みを通じ、持続可能な水産業の振興に貢献していくことを町民にも認識してもらい、取組みの意義を浸透させていきます。

### イ 域外向け(国内)

#### ■展示会への出展

水産業界や小売業界での展示会等にて漁業者や教育機関、研究機関、町内外の水産関係の事業者や行政の連携体制のもと、サプライチェーン・バリューチェーンとしての体制を示しながら、本取組みの実用性についてアピールしていきます。

#### ■営業活動における本取組みの訴求

愛南町のこれらの構想に示されている取組みは、他産地と差別化を図るには欠かせない要素であり、環境に配慮した水産物であることで、今後需要が伸びるであろうエシカル消費のマーケットに対して訴求要素として売り込んでいき、愛南町の取組みとして広く認識してもらうことで、社会から認知されるよう働きかけていきます。

### ウ 域外向け(海外)

#### ■海外からの視察・研修への対応

既に飢餓で苦しむ発展途上国等における食糧生産能力向上のため、国連食糧農業機構（FAO）を通じて、中東などからの能力開発のための技術研修の受入れ等を実施しており、今後もそれらの取組みを推進していくことで、愛南町の取組みの発信と持続可能性のある食糧生産システムの構築に貢献していきます。

#### ■輸出事業への取組み

欧米を中心に海外では日本よりもエシカル消費への認知度は向上しており、水産エコラベル認証は輸出の取引においてより重要度が増してくることが予想されます。海外のマーケットに日本の水産物の品質をアピールしていくとともに、愛南町の取組みが日本のスタンダードとして認識されるようアピールし、国内輸産地の先駆けとして牽引する存在となるように努めていきます。

### (3) 全体計画の普及展開性

人口減少や担い手不足、水産資源・漁業生産額の減少等は、ほかの水産業が盛んな多くの地方自治体で同じ課題を抱えていると認識しています。

愛南町が取り組む水産環境に特化した SDGs 未来都市構想はそれらの自治体の課題解決のモデルケースとしての有用性、普及展開性が高いものと考えています。

周辺市町村を始め、類似する自治体や関連団体、水産関係の民間企業とのパートナーシップを高め協業を進めていくことで、愛南町の取り組みの普及発展と全国先駆けの取り組みとしてのモデルケース化を目指していきます。

### 3 推進体制

#### (1) 各種計画への反映

上位計画と本構想の関係性について、第3次愛南町総合計画（2022～2029）と本構想の関係性を以下のとおり整理します。今後、本構想は町内の農林水産業及び商工業や観光業との各種計画とも連携しながら施策を執行してまいります。

①基本構想：町の将来像とそれを実現するための政策

【政策】活力ある産業を育てるまちづくり



②基本計画：基本構想に掲げる施策のめざす姿（目的）の明確化と政策に貢献する基本事業の制定（前期 2022～2025、後期 2026～2029）

【基本事業】水産業の振興

【施策のめざす姿】漁業経営の安定化及び持続可能な水産業の推進



③事務事業：基本事業のめざす姿を実現するための具体的な手段

【持続可能な漁業の推進】

- ・ カーボンニュートラル漁業を目指し、環境負荷の軽減及び資源の持続性に配慮した漁業の推進
- ・ 指標：水産エコラベル認証に基づく輸出量 53.0 t →63.6 t



④愛南町 SDGs 水産環境未来都市構想：経済・社会・環境の三側面における新しい価値創出を通じて、持続可能な漁業の振興やまちづくりを推進するための構想

【愛南海の森ブルーカーボンプロジェクト】

【海洋プラスチックごみ対策プロジェクト】

【サステナブルフィッシュ開発プロジェクト】

【ゼロエミッション、ゼロ・ウェイストプロジェクト】

【スマート水産業推進プロジェクト】

【海洋環境人材育成プロジェクト】

## (2) 行政体内部の推進体制

行政体内部の推進体制及び漁業者との計画のすり合わせについて、以下のとおり体系図としてイメージを整理します。

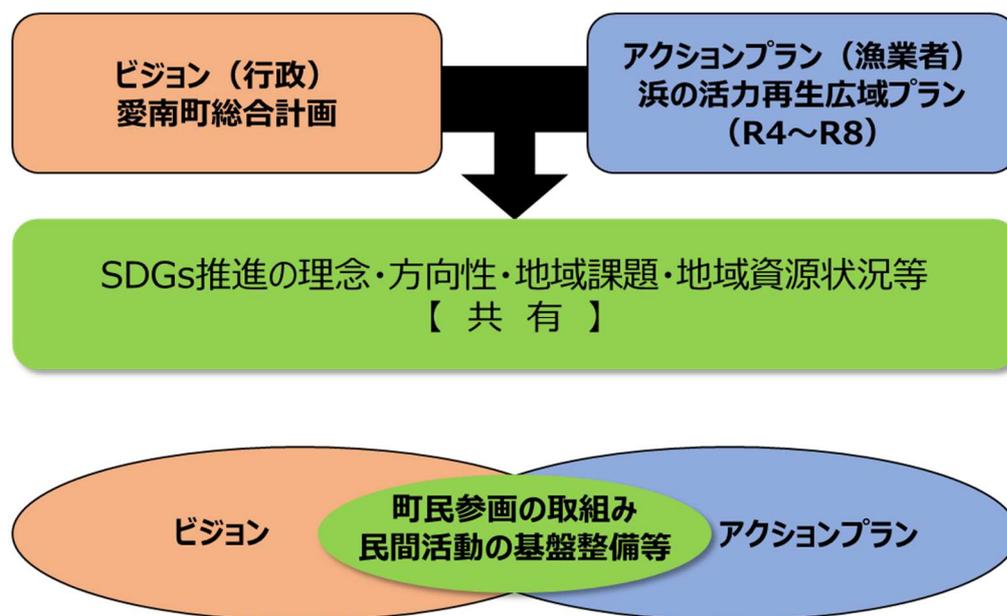


図 30 愛南町 SDGs 水産環境未来都市構想 推進体制 イメージ図

## (3) ステークホルダーとの連携

本構想の推進にあたり、行政や漁業者を始め各種ステークホルダーとの連携は不可欠であり、主要なステークホルダーについては以下のとおり想定しています。

- 行政：愛南町水産課及び関係部署
- 漁業者：愛南漁協及び久良漁協、その組合員
- 教育機関：町内の保育所・幼稚園・小・中学校、南宇和高等学校、宇和島水産高等学校
- 研究機関：愛媛大学、松山大学、松山東雲女子大学、日本女子栄養大学
- 事業者：地域の水産に係る流通・加工・小売業者、観光関連業者、NPO 法人（就労支援組織）等
- 町民：愛南町の町民

各プロジェクトに関するステークホルダーの分担は次頁の表のとおりです。

◎：主たる実施主体

○：従たる実施主体

## ＜取組みごとのステークホルダーの役割分担＞

プロジェクト名	主な取組み	行政	愛南 漁協	久良 漁協	教育 機関	研究 機関	事業 者	町民
愛南海の森ブルーカー ボンプロジェクト	藻場造成・再生・養殖・モニタ リング事業	◎	◎	◎		○	○	
	カーボンオフセット制度の検討	◎					○	
海洋プラスチックごみ 対策プロジェクト	発泡スチロール減容機、樹脂 圧縮成型機の導入		◎	○				
	樹脂燃料ハイブリットボイラの 導入	◎	○	○			○	
	海岸漂着プラスチックごみ回 収事業	◎	○	○	○		◎	◎
	防災対応型洋上風力発電 事業の検討	◎	○	○				
	海洋生分解性プラスチックの 導入検討	○	○	◎				
サステナブルフィッシュ 開発プロジェクト	環境配慮型養殖業	○	◎	○		○	◎	
	国際コールドチェーン		◎				○	
	環境配慮型梱包資材への転 換		◎				○	
ゼロエミッション、ゼロ・ ウェイストプロジェクト	食品残渣のゼロ・ウェイスト事 業	○	◎				◎	
	エシカル食品開発	○	○	○	◎	○	◎	
スマート水産業推進プ ロジェクト	水質テレメーターシステム導入	◎	◎	○		◎	○	
	赤潮自動顕微鏡システム導 入	◎	◎	○		◎	○	
	水産スマートモニタリングシス テム	○	◎	○		○		
海洋環境人材育成プ ロジェクト	愛南町水産人材育成事業 の拡充	◎	○	○	◎			
	愛南海洋環境塾の開設	◎	○	○	◎			◎
	愛南町クリーンオーシャンツ リズム	◎	○	○	○		◎	○
	水産女子活躍プロジェクト	◎	○	○			◎	○

#### (4) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

##### ■自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

既に機能している愛南町ぎょしょく普及推進協議会の活動の推進を継続しながら、両漁協及び組合員はもとより、町内外の水産関係の流通・加工・小売業者など、多様なステークホルダーとの連携を推進して、好循環モデルの構築を目指していきます。

また、町としても必要な予算措置を行い、両漁協や事業者の事業推進を積極的に支援していきます。

##### ■将来的な自走に向けた取組み

本構想の KPI 達成に向けて積極的に取り組む漁業者や地域の事業者への投融資が促進されるよう、地域の金融機関との伴走型支援体制の検討やクラウドファンディングを活用した事業資金の確保の支援、農林水産省や経済産業省などの公的補助金の獲得及び獲得支援を通じ、実証実験や初期投資・設備投資の援助を行うなど、将来的に事業者が自走できるよう多方面からの経済的支援を検討していきます。

また、本構想を通じて SDGs 水産環境に関する教育体制の構築と人材育成・担い手確保を推進することで、社会面への事業投資を通じて地域の水産業の基盤を強化し、持続可能な社会システムの構築につなげていきます。

## 4 地方創生・地域活性化への貢献

水産業が基幹産業である愛南町にとって、沿岸漁業の持続可能性も重要ではありますが、水産資源は年々減少し、海洋環境も変化していることから、これからは安定供給できる養殖業が水産物供給の中心となる時代を迎えると考えられます。

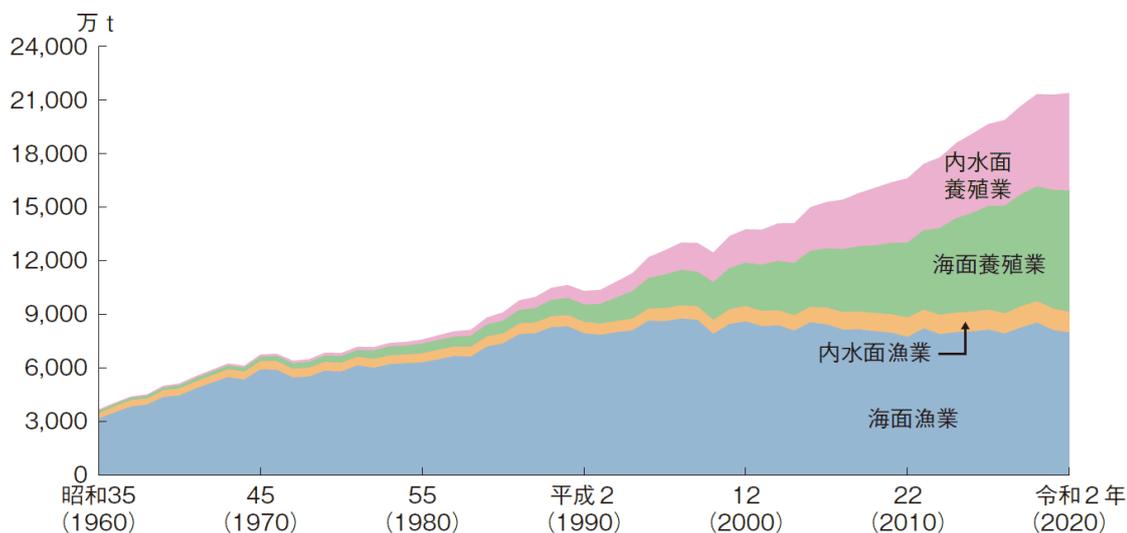


図 31 世界の漁業・養殖業生産量の推移

出典：水産庁「令和3年度 水産白書」

本町の特徴であり、国内でもトップクラスの生産量を誇るマダイの養殖を中心とした関連産業は町の基幹産業であり、この取組みを伸ばすことは、愛南町全体の地域活性化にとっても必要不可欠になってくると考えられます。

そのためにも労働力の確保なくして産業の維持・拡大は見込めないため、人口流入対策もさることながら、働きたくても働けない、潜在的な子育て世代の労働力の活用、定着率の向上を支援する取組みが特に重要となってきます。

また、それらの取組みを加速させるためにも、経済・社会・環境が循環しあいながら本構想を推進することで、愛南町全体の活性化につながり、持続可能な愛南町の水産業及び町の発展に寄与して、地方創生・地域活性化への貢献になると確信しています。